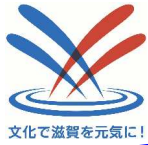


文化・経済フォーラム滋賀



文化deけいざい 経済deぶんか ニュース&にゅーす第20号(2012年9月19日)

発行 滋賀県文化振興事業団内事務局(大津市京町3丁目4-22 旧滋賀会館内)

TEL 077(522)8369 FAX 077(522)9647

eメール bunka-keizai@shiga-bunshin.or.jp

事務局 岸野 洋

文化deけいざい 経済deぶんか  
ニュース&にゅーす 第20号

今年も敬老の日が来て、新聞各社が14日付け夕刊で、日本の100歳以上人口を掲載しました。初の5万人突破、驚きましたねえ。恐ろしいような超高齢社会が現実です。47都道府県別では、10万人あたり人口で、高知が島根を抜いてトップに立ったと出ていました。名誉なのか、不名誉なのか、どうなのでしょう。滋賀県はどうか、ネットで調べますと、530人でした。去年は470人、1年間で60人増です。人口比率に対して、全国平均でしょうか。今更ながら元気で長生きですねえ。



前回のメルマガで間を開けずに発信と書きましたので、有言実行の20号です。バックナンバー点検しますと、第1号は昨年4月6日付

けでした。不定期な思いつき発信ですので、節目の20号だからと言ってメモリアル性は感じませんが、1年半で結構発信したなあとは思いますが。今回は先週13日、びわ湖ホールで開催した役員会の内容です。出席は木村至宏代表幹事はじめ、中井保副代表幹事、それに中村順一経営部会長、井上建夫企画部会長、馬場章広報部会長と3役が揃い、幹事の石丸正運さん、南千勢子さん、監事の中川浩さん、饗場貴子さんも出席、スタッフ含め大勢でした。2か月ぶり開催、議事多々でした。

議事の進行はいつもどおり、木村代表幹事です。議題に沿って、事務局スタッフがそれぞれに説明しました。**文化・経済フォーラム事業の秋の陣**、大分固まってきました。スタッフのみな様のおかげです。どんな事業があるのか、ご披露します。まずは、井上企画部会長が塾長を兼ねる**文化ビジネス塾**です。第1回は前回メルマガ報告しましたとおり、近江八幡市内を歩き、たねやの山本社長の話を聞きましたが、**次回の第2回は彦根市へ行き、彦根仏壇を勉強します。**たねやさん同様、成安造形大社会連携の石川亮さんが担当です。会議の席上、ざっと説明がありました。



**開催は10月27日(土)です。JR彦根駅に集合、彦根仏壇の制作工程がわかる七曲**

りを散策、最後に井上仏壇店で、社長の井上昌一さんからお話を聞きます。工部七職と言われる金箔、漆、金工など、個々の職人技によって成り立っている総合芸術としての仏壇づくり、これぞ明快な文化ビジネスです。彦根仏壇が昭和50年、仏壇業界では初めて通産省から伝統工芸品に指定されています。詳細は決まり次第、事務局から会員さまあて封書で連絡します。ご期待ください。



文化経済サロンの開催も概ね、決まってきました。文化・経済フォーラム滋賀会員の団体が開催している講演会などとのジョイントになります。開催順にわかっている範囲でお知らせします。そのは、県文化振興事業団が担当、米原市の文産会館で開催します「ビジネスカフェ」へご案内します。11月下旬の午後、湖北地区で農業とアートをつなぐ活動を展開しているコネファ・サムライブロジェクト代表・家倉敬和(や

ぐら・たかかず)さんにお話を聞きます。コネファは、湖北ニューファーマーズの略称です。アーティストが農家に滞在、農業を体験、その体験を生かした作品を発表します。これまで、こうした活動を通じた<農家アート祭>を大阪で2回、東京で1回、近江八幡で1回開催しています。アートとどう関わるか、米原の「ビジネスカフェ」では、塩むすび、豆ごはんも出るそうです。

そのは、中村経営部会長が理事長をされている淡海ネットワークセンターの「協働サロン」です。会場は未定ですが、日時は12月9日(日)で、講師はまちとアート研究所主宰、門脇篤(かどわき・あつし)さんです。中村部会長によると、門脇さんは宮城・仙台を拠点にモノとしてのアートでなく、関係性を可視化するコミュニケーション・アートに取り組みされているそうです。あっと驚くお話が聞けそうです。ちょっと洒落ました。

そのはびわ湖ホールが会長館として、事務局を持つ滋賀県公立文化施設協議会の「トップセミナー」への誘いです。会場はピアザ淡海、期日は12月19日(水)、講師はNPO法人DANCE BOX代表、大谷燠(おおたに・いく)さん=写真=です。地域社会とアートの新しい環境づくりについてのお話に期待が出来そうです。これら三つを文化経済サロンとして開催、詳細が決まればご案内しますが、役員会では、チラシを一つにまとめては...という提案もありました。事務局として、できればそうしたいと思



最後になりましたが、近江屋調査研究による報告会の開催です。これは成安造形大社会連携の加藤賢治さんが孤軍奮闘で担当、席上、自分の企画案をペーパーに落とし込み、説

明しました。テーマは「現代近江屋考 ~近江屋という屋号から見えるもの~」です。報告会は11月23日(日・祝)午後2時からびわ湖ホール小ホールで開催です。登壇者は4人です。最初は全国の近江屋さんを調べた加藤さんご自身です。そのあとは滋賀大教授で近江商人研究の宇佐美英機さんが講演します。そして、文化年間以来、200年間も近江屋の屋号で商いをされている近江屋ロープ社長、野々内達雄さんが加藤さんのインタビューを受けます。まとめは文化・経済フォーラム滋賀代表幹事で、成安造形大学附属近江学研究所の所長でもある木村至宏さんにお願いします。加藤説明は以上のような内容でした。会場には滋賀県中心の近江屋さんもお招きして、近江屋席を設けてはーという意見も出ていました。京都新聞はじめマスコミ各社も注目しています。どんなお話が展開するのか、今からワクワク感があります。



秋の陣、文化で滋賀を元気に！賞の募集も始まっています。まだ応募は少ないですが、



去年の88件を一つの目標にしたいと思います。みなさまのご協力をお願いしたいと思います。次回の第21回メルマガでは、会員さまの活躍ぶりと合わせ、募集状況をご報告したいと思います。長かった晩夏サヨウナラ、涼しい秋さんこんにちはです。

(文責 岸野)

追伸 このメルマガを書いていた文化経済サロン1回目のコネファ・家倉敬和氏と日程調整していた県文化振興事業団事務局の竹村憲男さんが「開催が11月29日(木)午後2時からに決まりました」と報告が入りました。これで文化経済サロン3回の日程が第1回は11月29日、第2回は12月9日、第3回は12月19日と決まり、竹村さんはスリーナインになりましたと言います。確かに9の日は3回、これ以上ナインぐらい覚えやすいです。